

セイタカアワダチソウは本当に悪者なの？

セイタカアワダチソウ（キク科アキノキリンソウ属 *Solidago altissima*）は北アメリカ原産の多年草です。悪の権化のようにいわれているセイタカアワダチソウですが、果たしてその正体は？

セイタカアワダチソウ豆知識

- ✿明治または大正年間に観賞用として導入されたが、これほど増えたのは戦後から。晩秋まで花が咲くので、蜜源植物として養蜂業者が全国に広めたい。
- ✿一株で4万粒～5万粒の種子をつくる。名前の由来は、背が高く泡が立つような白い綿毛のついた種子をつける様子から。
- ✿一時期花粉症の原因とされたがそれは濡れ衣で、花粉が風で運ばれる風媒花ではない。昆虫が花粉を運ぶ虫媒花。
- ✿大群落を作るのは、根からデヒドロ・マトリカリア・エステル（DME）という植物の発芽を抑える物質を出して周辺の植物を駆逐するため。これを多感作用（アレロパシー）という。ところが最近セイタカアワダチソウの勢いが衰えて元のススキ草原に戻っているらしい。他の植物を駆逐するはずが、増えすぎると自分自身に被害が及ぶ自家中毒を起こす。奢れる者久しからず。
- ✿原産地のアメリカでは日本のように背が高くなることはない。ネブラスカ州の州花とされている。お宅の庭のセイタカアワダチソウも切り戻してやると背が低くなりますよ。
- ✿花言葉は元気、生命力。
- ✿セイタカアワダチソウの汁を吸うセイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシが一番長い和名の昆虫。ワインレッドの鮮やかなおしゃれアブラムシ。アワダチソウグンバイという昆虫もいる。

いかがでしたか？悪いやつと思われていても、けっこう面白い話題が満載ですよ？セイタカアワダチソウも含めて、外来種は自分から日本を侵略してやろうと思って渡ってきたわけではなくて、ほとんどが人間が持ち込んできたものです。駆除することが必要な場合もありますが、外来種そのものが悪者ではないということの頭の片隅に置いていただくと幸いです。次頁から役立つセイタカアワダチソウの登場です。

参考文献

- 山溪ハンディ図鑑 野に咲く花 山と溪谷社
散歩が楽しくなる 雑草手帳 東京書籍
校庭の雑草 全国農村教育協会
日本帰化植物写真図鑑
おもしろくてためになる植物の雑学事典 日本実業出版社
ポケット図鑑 日本の昆虫 1400 ① ちょう、バッタ、セミ
文一総合出版